徒然草

花は盛りに、月は　くまなきを　のみ　見る　もの　かは。　雨に　向かひ　て　月を　恋ひ、　垂れこめ　て　春の　行方　知ら　ぬ　も、　なほ　あはれに　情け　深し。　咲き　ぬ　べき　ほど　の　梢、　散り　しをれ　たる　庭　など　こそ、　見どころ　多けれ。　歌の　詞書に　も、「花見　に　まかれ　り　ける　に、　はやく　散り過ぎ　に　けれ　ば。」と　も、「障る　こと　あり　て　まから　で。」など　も　書け　る　は、「花　を　見　て。」と　言へ　る　に　劣れ　る　こと　かは。　花の　散り、月の　傾く　を　慕ふ　習ひ　は、さる　こと　なれ　ど、ことに　かたくなる　人ぞ、「こ　の　枝、か　の　枝　を　散り　に　けり。　今は　見どころ　なし。」など　は　言ふ　める。

よろづ　の　こと　も、初め　終はり　こそ　をかしけれ。　男女　の　情け　も、ひとへに　逢ひ見る　を　ば　いふ　もの　かは。　逢は　で　やみ　に　し　憂さ　を　思ひ、あだなる　契り　を　かこち、　長き　夜　を　ひとり　明かし、遠き　雲居　を　思ひやり、

浅茅が宿　に（格助・場所）　昔　を（格助・対象）　しのぶ（バ四・体）　こそ（係助・強意（係））、　色好む（マ四・終）　と（格助・引用）

は（係助・強意）　言は（ハ四・未）　め（推・已（結））。

望月　の（格助・主格）　くまなき　を（格助・対象）　千里　の（格助・体修）　外　まで（副助・範囲）　眺め（マ下二・用）

たる（存・体）　より（格助・比基）　も（係助・強意）、　暁　近く（形ク・用）　なり（ラ四・用）　て（接助・単接）　待ち出で（ダ下二・用）　たる（完・体）

が（格助・主格）、　いと（副）　心深う（形ク・用（ウ音））、　青み（マ四・用）　たる（存・体）　やうに（比・用）　て（接助・単接）、　深き（形ク・体）

山　の（格助・体修）　杉　の（格助・体修）　梢　に（格助・場所）　見え（ヤ下二・用）　たる、（存・体）　木の間　の（格助・体修）

影、　うちしぐれ（ラ下二・用）　たる（完・体）　群雲隠れ　の（格助・体修）　ほど、　またなく（形ク・用）

あはれなり。（形動ナリ・終）　椎柴、白樫　など（副助・例示）　の（格助・体修）、　濡れ（ラ下二・用）　やうなる（比・体）　葉

の（格助・体修）　上　に（格助・場所）　きらめき（カ四・用）　たる（存・体）　身　に（格助・対象）　しみ（マ四・用）

て（接助・単接）、　心　あら（ラ変・未）　ん（婉・体）　友　もがな（終助・願望）　と（格助・引用）、　都　恋しう（形シク・用（ウ音））

おぼゆれ。（ヤ下二・已（結））

すべて、（副）　月・花　を（連語（格助・対象＋係助・強意））ば、　さ（副）　のみ（副助・限定）　目　にて（格助・手段）

見る（マ上一・体）　もの　かは（係助・反語）。　春　は（係助・区別）　家　を（格助・起点）　立ち去ら（ラ四・未）　で（接助・打接）

も（係助・列挙）、　月　の（格助・体修）　夜　は（係助・区別）　閨　の（格助・体修）　内　ながら（接助・継続）　も（係助・列挙）

思へ（ハ四・已）　る（存・体）　こそ（係助・強意（係））、　いと（副）　頼もしう（形シク・用（ウ音））、　をかしけれ。（形シク・已（結））　よき（形ク・体）

人　は（係助・区別）、　ひとへに（副）　好け（カ四・已）　る（存・体）　さま　に（断・用）　も（係助・同類）　見え（ヤ下二・未）

ず、（打・用）　興ずる（サ変・体）　さま　も（係助・同類）　なほざりなり。（形ナリ・終）　片田舎　の（格助・体修）　人

こそ（係助・強意（係））、　色濃く（形ク・用）　よろづ　は（係助・強意）　もて興ずれ。（サ変・已（結））　花　の（格助・体修）　も

と　に（格助・対象）　は（係助・区別）　ねぢ寄り（ラ四・用）　立ち寄り、（ラ四・用）　あからめ　も（係助・強意）　せ（サ変・未）

ず（打・用）　まもり（ラ四・用）　て（接助・単接）、　酒　飲み（マ四・用）、連歌　し（サ変・用）　て（接助・単接）、　果て

は（係助・区別）、　大きなる（形ナリ・体）　枝、　心なく（形ク・用）　折り取り（ラ四・用）　ぬ。（完・終）　泉　に（格助・対象）

は（係助・区別）　手・足　さし浸し（サ四・用）　て（接助・単接）、　雪　に（格助・対象）　は（係助・区別）　下り立ち（タ四・用）

て（接助・単接）　跡　つけ（カ下二・用）　など（副助・例示）、よろづ　の（格助・体修）　物、よそながら（副）　見る（マ上一・体）

こと

なし。　形ク・終